

海を行く艦達は、その
目に何を写す

trois

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ブラック企業に勤務している主人公が寝て起きたら艦これの世界に!?

しかも提督として艦娘達を指揮する立場に!?

主人公は、攻略サイトの知識を頼りにこの世界を生き抜いていく物語。

目次

始動『ハジマリ』

1

始動『ハジマリ』

「聞こえてる？聞こえてたら応答しなさい」

一瞬のノイズ音の後、

「はいはい聞こえてるよ」怠そうな男の声が返ってきた。

「まったく、少しはハキハキと喋りなさいよ」

「しゃーないだろ？俺が面倒くさがりなのはお前が一番わかってるだろ。霞《かすみ》さんや」

この怠そうな声の男こそ私達「艦娘」の司令官である

「薙原 優太」 21歳 面倒くさがりの駄目な男である。

「状況は？報告してくれ」

「了解、報告するわ、13:00遠征開始、14:30目標地点に到達及び物資を回収、

現在15:30鎮守府近海へ向けて航行中、鎮守府には16:40に到着予定よ」

「そうか・・・全員無事か？損傷してたりしないな？」

心配そうな声で聞いてくる。

「もちろん、全員無傷よ。強いて言うならお腹が空いてきたかしら」オナカスイタツポ
イー ユウシヨクナニカナー？

無線機から艦隊の声が聞こえてくる

「ハハハ、了解した。夕食作って待ってるよ。」

霞が着任している鎮守府にはまだ、間宮も伊良湖も着任していないために提督が自分で料理しているのである。

「ええ、お願いするわ」

「任せろ、気を付けて帰還しろ。命令だ。」

「了解したわ」

通信が切れる

「ふう」ため息が漏れる

「霞ちゃん？どうしたつばい？」

どこことなく犬つばい子・・・白露型駆逐艦四番艦「夕立」

が覗きこんでくる。

「心配性と思ってるね」

「提督が？」

「ええ・・・もし誰かが沈んだら司令官は立ち直れないかもしれないとも思ったの」

「大丈夫だと思っばい。だって提督さんは夜の遅くまで艦隊運用の本読みふけてるっばいし……」

「けど、「私達が沈まないようにすればいいっばい！」

「そうすれば提督さんは大丈夫っばい!!」

クスツ「そうね……よし!!艦隊、鎮守府まで帰還するわよ」ハヤクカエロー テイト

クサンノゴハンタノシミツポイ♪ マツテヨー

『もしそんな事が起こったら私はどうするのかしらね』

『司令官は一体何を考えているのかしら……』

一抹の不安を覚えながら振り替える霞。

霞の瞳には「暁に燃える水平線」が写っていた……

Side 霞 end

Side 提督 Start

「ふう……今日も何事なく終わったか……」

『俺がここ……いや、この世界に来てからもう七ヶ月』

『なんで……こんなことになったんだろうな……』

『ただデイリー消化して寝た筈なのに……』

『まあ、あのクソツタレな世界からサヨナラできたことだし……』

『自由に生きよう』

『ただあいつらと一緒に日常を過ごして』

『誰も殺さず、誰も哀しませないように』

S i d e 提 督 e n d